

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月24日現在

機関番号：41650

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23830120

研究課題名（和文） フランスにおける多機関連携を基盤とする  
キャリア教育モデルの比較研究研究課題名（英文） Comparative Study of Career Education Model Based on  
Multi-Agency Collaboration in France

研究代表者

京免 徹雄 (KYOMEN TETSUO)

郡山女子大学短期大学部・幼児教育学科・講師

研究者番号：30611925

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、フランスの進路指導における多機関連携ネットワークの全体像を描き出し、教育学的観点から進路を公的に保障する仕組みを解明することである。パリおよびオルレアンで実施した実地調査の結果、2009年にサービスの範囲・対象者・内容の異なる諸機関の関係が、社会的ステータス（横軸）と社会的機能（縦軸）に従って整理されていることが明らかになった。さらに、2011年に発表された認証評価基準によって、そのネットワークの質保証が行われている。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to draw the entire structure of the network based on multi-agency collaboration in career guidance of France, then to elucidate the mechanism for guaranteeing a life course publicly from a point of view of pedagogy.

The result about the survey of an on - the - spot survey in Paris and Orleans showed the following. First, the relations of each institution that has different range, object, and contents of service were arranged according to the social status (cross axle) and the social function (vertical axis) in 2009. Second, the quality assurance about this service network is performed in accordance with the certification and evaluation standard announced in 2011.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	800,000	240,000	1040,000
2012年度	900,000	270,000	1170,000
年度			
年度			
年度			
総計	1700,000	510,000	2210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：教育学、キャリア教育、比較教育学、フランス

## 1. 研究開始当初の背景

産業や経済の構造的変化に伴う雇用形態の多様化・流動化が起きている現在、多くの

先進諸国にとって若者の職業社会への移行は重要な教育課題の1つである。フランスでは、教育基本法において「進路に関する助言

を受ける権利」と「教育と職業に関する情報を受ける権利」が規定されている。この権利を保障するため、「生涯進路指導」が組織され、国家は個人に対する公役務を担うことになっている。具体的には、異なる省庁の管轄下にある進路支援機関が一体となってネットワークを形成し、各学校と連携することで進路指導を実施している。

これまで筆者は、継続的な「生涯進路指導」の一部を構成する「進路への教育」に注目し、その中心軸である中学校と情報・進路指導センターとの二者間連携の研究を進めてきた。しかし、それが若者の職業的自立に向けた「生涯進路指導」の中でいかなる位置を占めるのか把握するには、ネットワークの全体像を明らかにしなければならない。そのためには、より多様な機関の「ヨコ」の連携実態を検討することに加えて、後期中等教育、高等教育、職業社会(学校からの中退を含む)における進路指導にも焦点を当て、「タテ」および「ナナメ」の連携も視野に入れる必要がある。

多機関連携のもとで進路指導を行うフランスのモデルが我が国に与える示唆は大きい。かつて若者を職業へと振り分けてきた「パイプライン」としての学校制度は機能不全を起しており、学校が外部機関との重層的な連携によってキャリア教育を実施することは、今後よりいっそう重要性を帯びてくると思われる。しかし、我が国には進路支援の専門機関が少なく、「若者自立・挑戦プラン」(2003)により創設されたジョブカフェも目先の「就職支援」を行うにとどまる。長期的キャリアを見通して若者の能力を発達させるという教育学的視点が欠如しており、ゆえに教育機関との連携も不足している。

既にキャリア教育モデルに関する国際比較研究はいくつか存在するが、その多くが政策や支援機関の個別検討にとどまっている。しかし、体系的な教育モデルを構築するためには連携、つまり各アクター間の接合点に光を当て、その現実と課題を実証的に分析することが求められる。

## 2. 研究の目的

若者が社会的弱者に陥っている多くの先進諸国において、国家が「学ぶ世界」から「働く世界」への移行を公的に保障していくことが喫緊の課題となっている。そのためには、経済政策による雇用創出、教育制度や労働市場の再設計と並んで、若者が既存社会において進路形成できるように、学校と関係機関が協力して支援にあたる必要がある。本研究の目的は、フランスの進路指導における多機関連携ネットワークの全体像を描き出し、教育

学的観点から進路を公的に保障する仕組みを解明することである。その上で、我が国への応用をはかり、進路保障の一端を担う包括的なキャリア教育モデルを考案する。

## 3. 研究の方法

各関係機関を訪問し、資料収集および職員にインタビュー(半構造化面接法)することによって、多機関連携ネットワークの解明を試みた。

### (1) 実地調査の準備

本研究で調査する進路指導関連機関の歴史、規模、役割、業務、評価に関して、当該機関の刊行物、ウェブサイト、政府報告書などの文献を通じて理解し、インタビュー内容を決定した。

### (2) 実地調査

現地の研究者とコンタクトをとり、実地調査の準備を進めた。当初、パリを中心に調査を行う予定であったが、トゥール大学区への受け入れが認められたので、調査地を変更した。

2013年3月13日はパリ郊外のボンディ(Bondy)にあるミッション・ローカル(Mission Locale)を訪問した。同地区は大部分の家庭が経済的困難を抱えおり、何の資格も取得せずに離学した若者が支援機関を利用している。活動内容、他機関との連携の在り方等について尋ね、さらに個別職業指導行程(POPI)というプログラムを参観した。これは①キャリアカウンセラーとの面談を通して自己理解を深めて興味のある職業を発見し、②関連企業で2週間~12週間の研修を積み、③進路ストラテジーを構築するというステップで構成される。

3月15日~16日はオルレアン大学情報・進路指導局(SAIO)で短期研修を受けた。SAIOの役割について説明を受けた後、高校の進路指導を担当している進路指導・情報センター(CIO)、大学情報・進路指導局(SUIO)を訪問した。SUIOは①各大学に帰属するのではなく国家の公役務として運営されていること、②オープンキャンパスなど高校生受け入れの企画を担うことなどが我が国と異なっていた。

また、国立教育・職業情報局(ONISEP)の支部を訪問し、2008年に導入された「職業と教育制度の発見行程」(PDMF)の実施状況を調べた。「進路指導・教育パスポート」(相互交流型ポートフォリオ)を作成するWebclasseurが本格運用されていることが明らかになった。

### (3) 調査結果の分析

2年目に、パリおよびオルレアンの実地調査で入手した資料やインタビューの分析を行った。

#### 4. 研究成果

分析の結果、「生涯進路指導と生涯職業訓練に関する2009年11月24日の法律」によって、2つの軸によってサービスの範囲、対象者、機能が異なる諸機関の関係が整理され、全国的なネットワークが築かれていることが明らかになった。第1の軸（横軸）は、欧州レベル、国家レベル、地域圏レベル、地方レベルという機関のステータスであり、第2の軸（縦軸）は決定機関、情報生産機関、情報仲介、機関情報、提供対象という機関のもつ社会的機能である。各機関の専門性が強いのが特徴であるが、最初の相談窓口はどこでもよく、そこを入り口として利用者のニーズに応じた専門機関に割り振ることになっている。各機関が連携することで、多様な利用者の多様なニーズに応じることが可能であり、生涯進路指導に寄与する。

さらに、この仕組みを実質的に機能させているのが、新たに考案された質保証の仕組みである。「2011年5月4日の省令」によって、「国家認証評価(label national)に関する義務目録」という認証評価基準が定められた。そこでは、諸機関が連携協約を締結し、地理空間と地域特性を考慮したネットワークを結成することが定められた。また、連携に対する責任を明確にするためにコーディネーション責任者を設置し、責任者が中心となってサービスの自己評価や認証評価の申請を行うことになっている。

以上のように、本研究によって、①ネットワーク化による多機関連携と②認証評価による質保証の仕組みが明らかになった。両者は、生涯進路指導の両輪として密接に結びついている。

我が国にも少数ながら進路支援の専門機関が存在するが、その機能は就職支援に偏っており、多様性に欠ける。さらに、各機関の関係や役割分担が不明確であり、機関同士の連携は不十分である。このような状況にあって、フランスのシステムは、我が国における多機関連携を基盤とするキャリア教育モデルに一定の示唆を与えるものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計8件)

- ① 京免徹雄「フランスの学校教育における進路指導の成立と展開—進路形成に関する機能の変容とその帰結—」、博士学位申請論文、早稲田大学大学院教育学研究科、2013。
- ② 京免徹雄「フランスの進路指導における質保証の論理と実践—進路指導心理相談員の公役務をめぐる諸論議に着目して—」、査読有、早稲田大学教育総合研究所『早稲田教育評論』第27巻、2013、83-96頁。
- ③ 京免徹雄「短期大学における特別活動法を応用した学生生活支援—アセスメントに基づくクラス集会の実践—」、査読有、日本特別活動学会『日本特別活動学会紀要』第21号、2013、61-70頁。
- ④ 京免徹雄「フランスにおける『職業と教育制度の発見行程』を通じた移行支援—生涯進路指導と資格水準の向上への取り組み—」、査読有、日仏教育学会『日仏教育学会年報』第18号、2012、39-49頁。
- ⑤ 京免徹雄「世界の『国語』教育事情 第2回 フランス」、査読無、大修館書店『WEB国語教室』、2012。
- ⑥ 京免徹雄「女性保育者の初期キャリア形成に関する一考察—短期大学生の職業観の変化に着目して—」、査読無、早稲田大学教育学会『早稲田大学教育学会紀要』第13号、2012、245-252頁。
- ⑦ 京免徹雄「フランスにおけるキャリア教育の方法に関する一考察—『進路への教育』の理念と理論に着目して—」、査読有、郡山女子大学『郡山女子大学紀要』第48集、2012、89-100頁。
- ⑧ 京免徹雄「フランスの進路指導における教員と相談員との連携—リヨン郊外の進路困難校を事例として—」、査読有、日本キャリア教育学会『キャリア教育研究』第30巻1号、2011、15-23頁。

#### 〔学会発表〕(計9件)

- ① 京免徹雄「フランス中等教育における進路指導と教科指導の融合—普通教育カリキュラムの中の『職業』の再検討—」、日仏教育学会2012年度創立30周年記念研究大会、早稲田大学・早稲田キャンパス、2012年11月。
- ② 京免徹雄「フランスにおける生涯進路指導のネットワーク化と質保証—『万人のための進路指導』の実現に向けた動き—」、日本キャリア教育学会第34回大会、滋賀大学、2012年10月。
- ③ 京免徹雄「学生生活支援への特別活動法の応用—アセスメントに基づく『学級活動』の実践—」、日本特別活動学会第21回大会、愛媛大学、2012年8月。
- ④ 京免徹雄「文教施設の一極化における矢祭

町の教育のあり方—幼保小中連携の視点から—」、講演、矢祭町教育委員会主催、第2回幼保小中連携検討委員会、矢祭町教育委員会、2012年2月。

- ⑤京免徹雄「幼保小中連携の現状と課題」、講演、矢祭町教育委員会主催、文教施設のあり方に関する講演会、ユーバル矢祭、2012年3月。
- ⑥京免徹雄「フランスにおけるキャリア教育の歴史と新展開—コレッジにおける進路指導を中心に—」、講演、フランスにおけるキャリア教育を通じた社会統合と公教育の再構築に関する総合的研究会、宇都宮大学、2012年3月。
- ⑦京免徹雄「女性保育者の初期キャリア形成に関する一考察—短期大学生の職業観の変化に着目して—」、早稲田大学教育学会第13回大会、早稲田大学・早稲田キャンパス、2012年3月。
- ⑧京免徹雄「フランスにおける進学指導の成立過程に関する基礎研究—職業指導との関係性に着目して—」、日本産業教育学会第52回大会、宇都宮大学・峰キャンパス、2011年10月。
- ⑨京免徹雄「フランスにおける進路指導の質保障に向けた取り組み—進路指導心理相談員の公役務をめぐる諸論議に着目して—」、日本比較教育学会第47回大会、早稲田大学・早稲田キャンパス、2011年6月。

[図書] (計3件)

- ①京免徹雄「第4章-2 総合的な学習の時間と道徳教育」「第4章-3 特別活動と道徳教育」、石堂常世編著『道徳教育の系譜と展開』、学術図書出版社、2013年刊行予定（印刷中）。
- ②ジャン＝クリストフ・フランソワ、フランク・プポー著、京免徹雄・小林純子訳「就学実践の社会空間的決定因」、園山大祐編著『学校選択のパラドックス』、勁草書房、2012、214頁。
- ③京免徹雄「解説 1 フランスの教育制度」、ピエール・ブルデュー著、立花英裕訳『国家貴族Ⅱ』、藤原書店、2012、818頁。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

京免 徹雄 (KYOMEN TETSUO)

郡山女子大学短期大学部・幼児教育学科・講師

研究者番号：30611925